

苦勞を重ねた経験をもとに 「失敗を恐れるな」と励ます

中学校での成績不振、医者への道の挫折など、苦勞が多かった川本先生。だからこそできる真摯な進路指導が、生徒の本気を引き出しています。

小学校受験、中学校受験、とある私立中学校で成績が振るわずまさかの転校勧告により高校受験、大学の医学部を目指して浪人生活を経験、大学卒業後あきらめきれず医学部を目指して一般受験も学士入学受験もするもかなわず…。「全部の受験を体験している」という前半生の中で、たくさんの先生に出会い、助けてもらった。「医者になる夢をあきらめたとき、人を助けるのは医者だけじゃない、先生になって人を助けよう」と決意しました」という。

悩みや葛藤を経て決めれば 苦勞や挫折も乗り越えられる

学校では経歴を買われ、すぐ進路指導部に配属された。以来ずっと進路畑だ。

同校の進路にかかわる一番の課題は、進学にしろ就職にしろ、本気で考えず、安易に決める生徒がいること。そこで先生はことあるごとに生徒に語りかける。

「大事なのは人生で本当に欲しいものは何かを見つけること。そのためには努力しかない。悩んで苦しんで辿り着いた答えなら、

苦勞や挫折も乗り越えられますから」。

生徒も保護者も、どちらかといえば失敗の少ない妥当な進路をみつけようとする。しかし川本先生は「たくさん失敗してたくさん迷ったほうがいい」と言う。やりたいことが決まっている生徒にも必ずほかの選択肢を提示し、「本当にそれでいいの？」と揺さぶりをかけるそうだ。

先生の熱意に魅かれ、進路指導室はたくさんの生徒であふれている。受験で苦勞したからこそ、勉強にもできる限り付き合う。

ゲートボール部の活動や研修で 校外へ出かけ、リフレッシュ

リフレッシュできる場もある。実は学校がある芽室町はゲートボール発祥の地。先生はその縁でできたゲートボール部の顧問として生徒と共に親善試合に出かける。またさまざまな研修にも積極的に参加。視野を広げる格好の機会になっている。

今後は学校の全分掌を体験するのが目標。「せっかく先生になれたのだから、とことんこの仕事を味わいたい」と貪欲だ。



北海道私立白樺学園高校
川本 賀信先生 (32歳)

東京・私立駒場学園高校を経て帯広畜産大学畜産管理学科卒業。学習塾講師をしながら理科の教員免許を取得。2006年より現職。2010～2011年まで進路指導部長。ユネスコ部とゲートボール部の顧問を務める。出身高校の校風から学んだ「生徒を大切に作る姿勢」を信条にしている。



生徒の書いた先生の似顔絵。多くの生徒が先生を慕っている。「ある時生徒の成績だけを見て進路指導をしてしまい、すぐ反省しました。生活ぶりや人柄、特技などを総合的に見ないとダメ。進路指導部にとどまらず、全分掌を体験したいと思ったきっかけです」。

fan message



看護師を目指したいと相談したら、「人生かけて勉強する覚悟があるか」と言われ「厳しいなあ」とへこみました。でも参考書を選んでくれたり、不足科目の勉強をみてくれたおかげで看護学校に無事合格できました。どの生徒も全力で励ます先生を尊敬しています。(3学年・五十嵐梨奈さんより)